

2022.4.19

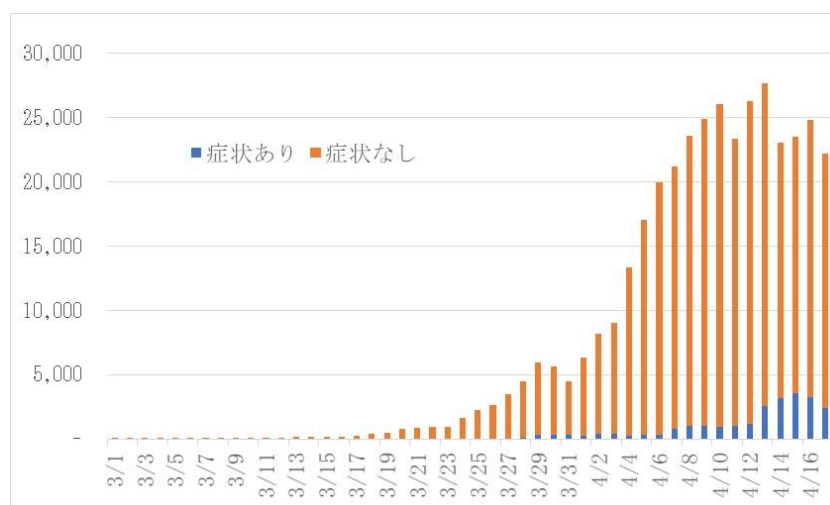
中国風険消息<中国関連リスクニュース> <2022 No.1>**<緊急発行>現地駐在員がみた上海市の封鎖管理（ロックダウン）****【要旨】**

- ◆ 上海市では新型コロナウイルス（主にオミクロン株）の感染再拡大を受けて、3月末より市全域を対象とした封鎖管理（ロックダウン）を開始した。
- ◆ ロックダウン開始時の上海市当局発表より、ロックダウンは、上海市を東西に分けて両地域を4日間ずつ順番に封鎖するという時限的な措置となると考えられたが、現在に至るまで広い地域で封鎖が継続しており、全面的な封鎖解除には更に相当の時間を要すると思われる。
- ◆ ロックダウンの長期化を受けて、市民生活や事業活動への影響が拡大しており、在留邦人や日系企業も対応に苦慮している。
- ◆ 本稿では、現地駐在員が、ロックダウンの渦中に身を置く立場から、現地における生活や事業活動の実情について自らの体験談とともに説明する。

1. 封鎖管理（ロックダウン）前後の状況

ゼロコロナ政策をとる中国では、スマートフォン保有者の位置情報等を国家の身分証システムと連携させることで、国民の行動履歴や他人との接触歴を把握することにより、感染者や濃厚接触者を早期に特定し、厳格に隔離する対策が実施されてきた。この対策は、スマートフォンアプリを通じて、国民一人ひとりに健康コードや行程コードが付与され、コードに異常が生じた場合には行動が制限されたり、隔離される仕組みである。万が一、陽性者が確認された場合には、当該者の行動履歴に基づき、市内の地域的封鎖（居住区、事業場、商業施設等）が実施されるため、「会社が突然封鎖され、事務所で一晩を過ごした」「買い物に行った先（衣料品店）で48時間閉じ込められた」といったケースも発生した。これらの取組みを徹底することにより、感染者の発生を低い水準に制御していた。

しかし、2022年3月初旬頃より、吉林省や上海市、深圳市等で感染者の急激な増加が始まり、各都市でロックダウンが実施されるに至った。図1は、上海市における直近1ヶ月半（本稿では3/1～4/17を対象）の新規感染者数の発生状況を示したグラフである。

**図1 新規感染者の発生状況**

出典：上海発布（ウィーチャット上海市公式アカウント）を基に弊社にて作成

感染拡大の理由は諸説あると思われるが、特に上海市に関しては、「一足早く感染が急拡大した香港から大陸へ一時避難した人々が多数、空路で上海に入ってきた」、「ある隔離ホテルの感染者への管理が不十分であり、外部へ感染が広がった」といった見方がニュース報道等では代表的である。

この頃より、多数の市民を対象としたPCR検査が頻繁に実施されたり、省を跨ぐ移動にPCR検査の陰性証明が必要になる等、管理レベルが次第に強化されたが、結果として感染者の増加に歯止めがかからず、今般のロックダウンに至った。

3/28 早朝より実施された上海市のロックダウンは、市内を黄浦江を境に東西二つのエリアに区分し、まず東エリアを4日間、続いて西エリアを4日間順番に封鎖するといったものであった。ロックダウン期間中は外出が禁止されるだけでなく、地下鉄やバスなどの公共交通機関もほとんどの区間で運行が停止されることとなった。前頁図1が示す通り、延べ8日間の段階的な封鎖では感染者の増加に歯止めがかからなかったこともあり、その後もほとんどの地域でロックダウンが継続され、現在に至っている。



図2 ロックダウン開始当時の様子

ロックダウンの段階的な緩和を目指す動きとして、4/12には、市内を居住エリアごとの感染者の発生状況に応じて「防範区」「管控区」「封控区」の三つに区分する新しい管理ルールが始まった。新規陽性者が14日連続でゼロを達成できれば、条件付きで外出が認められる。各々の区分の概要は表1のとおりである。

表1 感染者発生状況に応じた区分

防範区 (封鎖解除)	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 直近14日以内に陽性者が発生していないエリア ✓ 可能な限り人の流れを減らし、人が密集することを禁止 ✓ 防範区から管控区、封控区への移動を禁止 ✓ 防範区で陽性者が発生した場合には、封控区へ区分変更
管控区 (エリア内)	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 直近7日以内に陽性者が発生していないエリア ✓ 「自宅での健康観察：7日間」を実施 ✓ エリア外へ出ること、人が密集することを禁止（原則、自宅内で生活） ✓ 管控区で陽性者が発生した場合には、封控区へ区分変更 ✓ 上記期間に陽性者が発生せず、6日目に実施するPCR検査でエリア全体の住民が陰性の場合には、防範区へ区分変更
封控区 (封鎖)	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 直近7日以内に陽性者が発生したエリア ✓ 「封鎖管理：7日間」＋「自宅での健康観察：7日間」を実施 ✓ 前半7日間＋後半7日間に陽性者が発生せず、14日目に実施するPCR検査でエリア全体の住民が陰性の場合には、防範区へ区分変更

出典：上海発布を基に弊社にて作成

外出が認められる「防範区」となったエリアは、人口密集度の低い市郊外やロックダウンで人の出入りが絶えたオフィスビル等が多かったようだ。都市部の多くのエリアは最も厳しい「封控区」となった。在留邦人が住むエリアも多くは「封控区」であるため、引き続き外出は認められない。また、「防範区」となった場合でも、自由に外出してよいわけではなく、自宅で過ごすことが強く推奨されている（引き続き外出を認めない運営を継続している居住区もある）。エリアを跨いで移動も当局より認められていないため、自由に買い物に出かけたり通勤や通学を行える状況ではない。

2. 市民生活への影響

ロックダウンの長期化により、様々な面で市民生活に大きな影響が生じている。筆者の実体験をもとにトピックごとに説明する。

（1）食料品・水の確保

市民にとって一番大きな問題は「食料品・水の確保」である。市内での感染者数が急増するにつれ、上海市でもロックダウン（中国国内の他市で実施の実績あり）が実施されるのではないかと不安が市民の間で広がり始め、急速に市民の「食料品・水の確保」への意識が高まったように感じる。

表2にロックダウン開始前、開始後における状況を記載する。

表2 ロックダウン開始前後の市民生活の状況

ロックダウン 開始前	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 市民がスーパーに殺到し、野菜や肉などの食料品、水などの飲料を確保する姿が報道された。多くのスーパーで食料品・飲料が完売したため、十分な食料を確保できなかった市民も一定数発生したものと想定される。
---------------	---

<p>ロックダウン 開始後</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ネットスーパーでも食料品等が短時間のうちに完売し、購入できない事象が多発した。必要な食料品等を購入できる確率は非常に低く、別の方法で確保する必要があると感じた。 ✓ 4月初旬より、ウィーチャット（中国版LINE）の住居コミュニティグループのチャット上で、「団体購入（住居コミュニティが一つの団体となり、まとめて食料等を発注するシステム）」に関する情報が共有された。通常時より割高ではあるが、定期的な食料等の調達が可能となり、非常にありがたく感じた。一方で最低発注数があるため、特に小規模のコミュニティでは購入が成立しないなどの事象も発生している。 ✓ 各家庭で不足する（またはストックがある）食料について情報を共有し、必要に応じて各家庭間で食料を融通するというケースも多々見受けられる。 ✓ 4月以降、筆者の住居では、市からの食料配給（3回）があった。エリアにより配給される品物の内容もバラバラであり、そのなかには日本人にとって馴染みがなく、使用（調理）方法に頭を悩ませる品物もみられたようである。 ✓ 一方で、依然として十分な食料・水を確保できていない市民がいるといった情報も耳にする。「1回の食事量を減らす、食事の回数を減らす」「水道水を沸騰させてから使用する」などの対応を強いられている状況もみられる。
-----------------------	--



買いだめ客で賑わう八百屋（3/28撮影）



買いだめ客を見込んで
商品箱があふれる果物屋（3/28撮影）



浦东新区から配給された食料（3回分）

図3 市民生活の様子

（２）日用品・嗜好品の入手

ロックダウン以降、個人が利用できる物流・宅配機能はほとんど停止している。ネット通販等で注文することはできるが、いつまで待ってもモノが届かないことになる。したがって、政府からの配給やマンション単位で実施される団体購入で入手できる物資以外、入手が極めて難しい。日用品（トイレットペーパー・調味料・歯磨き粉・シャンプー・乾電池等）や嗜好品（コーヒー・酒・たばこ等）は、できるだけ消費を抑える必要がある。なお、最近ではマンション内の住民間での物々交換も活発化している。外出許可・通行許可を持っている代行業者に、賃金を支払って買い物を依頼する方法で物資の入手に成功した例もあるようだ。

（３）PCR検査、抗原検査

3/28のロックダウン開始以降、筆者はPCR検査（当局実施）、抗原検査（各自実施）を7回ずつ実施している。4月以降については、おおよそ毎日交互にPCR検査または抗原検査を受けている状況である。これらの検査は大人はもちろんのこと、乳幼児まで対象となっている。一定の身体的な負担や精神的な負担が生じているのではないかと推測される。一方で、PCR検査はマンション敷地内の屋外で行われる場合が多いため、外の空気を吸って気分転換できる貴重な機会と感じている人も少なくない。PCR検査の結果は翌日以降にスマートフォンで確認できる。また、抗原検査は、各自で実施した上で結果を当局へ報告する仕組みである。

2週間以上封鎖されているマンションでも陽性者が発生するケースが少なくないことから、「外部から購入した食材の梱包・包装等が感染源となっている可能性」について、当局より注意喚起がされている。当局は、配達員に対するPCR検査を強化するとともに、梱包等の消毒の徹底を市民に呼び掛けている。

	<p>本查询数据由上海市卫生健康委提供</p> <p>采样时间: 2022-04-10 21:09:07</p> <p>检测机构: [REDACTED]</p> <p>检测时间: 2022-04-11 19:30:04</p> <p>检测项目: 核酸</p> <p>检测结果: 【阴性】</p>
PCR検査_実施状況	PCR検査_結果
	 
抗原検査_手順	抗原検査_結果

図4 PCR検査・抗原検査の状況

なお、陽性者の大部分を占める無症状感染者は、体育館や大型展示場等の公共施設を利用した隔離施設で集中隔離されるケースが多い。感染者の急増に伴って、ベッド数が不足しているため、市内の各所で施設の増設が進められている。上海市内だけでは隔離施設を十分に確保するのが難しくなっており、無症状感染者が市外（近接する他省）の隔離施設へ移送されるというケースも出ているようだ。



上海国家エキシビションセンターの隔離施設
出典：人民網日本語版 2022年04月09日

図5 隔離施設

（４）医療

ロックダウンの開始に伴い、在留邦人が利用する日系のクリニックや歯科もすべて外来が閉鎖されており、かろうじて一部の医療機関が電話やメール、チャットでの医療相談に対応している状況である。ローカルの医療機関も多くは閉鎖されており、万が一の急病やケガの場合の対応には大きな不安がある。

筆者の場合、持病の治療のために定期的に受診している日系クリニックがロックダウンにより閉鎖されてしまい、これまで処方してもらっていた薬を入手できなくなった。あと数日で薬が切れてしまうため、医療機関に連絡したところ、「医師や職員もクリニックへ立ち入りできない状態で薬を取り出すことができない。ネット通販で薬を購入し、宅配で自宅へ届けるのでしばらく待つてほしい」とのことであった。クリニックの親身な対応に感謝しつつ薬の到着を待っているが、注文から10日以上経過した現在も薬は届いていない（追記：12日目によりやく到着した）。

（５）現地での情報収集

現地での情報源として最も重要なのは、上海発布（上海市のウィーチャット公式アカウント）である。日々の感染者数の推移や市当局の施策はここで公表されることが多く、ニュース報道等も上海発布の情報をそのまま引用することも多い。上海市の公式アカウント以外では、ウェイボーや中国版ティックトック等にも多数の情報が投稿されており、ロックダウン下の情報源として欠かせない。政府からの配給物の内容（地域により異なる）や、隔離施設的环境は特に高い関心を集めており、多数の画像や動画が投稿されている。そのいくつかはTwitter等にも転載されているので、「上海 疫情」等のワードで検索できる。中には悲惨、過激なものもあるが、個々の情報の真贋を判断するのは容易ではない。政府は虚偽の情報を嚴重に取り締まることを明言しており、実際に処分も行っている。出所の不明な情報を安易に拡散することがないように注意する必要がある。

また、居住エリア内の生活に関する情報収集では、ウィーチャット（中国版LINE）が欠かせない。筆者の居住するマンションでは住民のグループチャットが立ち上がっており、野菜等の共同購入

の募集、マンション内での物々交換（ほとんどは食材）、生活上の困りごと等について頻繁にやり取りされている。

3. 事業活動への影響

3/28 早朝 5 時に始まった東側エリアのロックダウンについて、当局から事前予告があったのは前夜 20 時過ぎであった。東エリアは世界有数の金融センターもあり日系企業も多い。結果論になるが、ロックダウンが長期化することを想定すれば、業務継続に最低限必要なもの（例えばノート PC、印鑑、電子化されていない重要書類、ネットバンキングの専用 USB 等）は前夜までに事業所から持ち出すべきであったが、時間的猶予がほとんどなく、多くの企業にとってこのような対応は困難であったと思われる。西側エリアに拠点を置く企業にとっては、ロックダウンの開始までに数日の猶予があったことになるが、当初、4 日間とされていたロックダウンが長期化し、その間事業所への立ち入りが完全に不可能となることを予見して十分な対策を講じることは難しかっただろう。

本稿執筆時点では、市民の外出はなお厳しく制限されており、自由に事業所に出社して業務を行える状況にない。市内のオフィスや工場もほぼ全て稼働停止していると考えられる（一部、会社に泊まり込んで業務継続を図っている会社も存在するようである）。物流もほぼ停止しているため、上海市内の工場が原材料の調達や製品の出荷を行うことは非常に難しい。上海市近郊の地域における生産活動にも影響が生じているとの報道もある。

感染の再拡大に伴って、上海市を含む各省市は税金の減免措置を含む企業支援策を打ち出し始めているが、今のところ中小零細企業を対象としたものが多い。ロックダウンの長期化が各企業の業績へ与える影響は現時点では見通せないが、今後は資金繰りに窮する企業も出てくるとと思われる。

4. まとめ

筆者は、新型コロナウイルスの感染が世界的に拡大した 2020 年には、すでに上海で生活していた。緊張が最も高まった 2020 年 1~3 月頃は、ウイルスの毒性や感染力が極めて高いと考えられており、ウイルスや治療法も確立されていなかったため、感染予防や医療面の対応が最大の関心事であった。その反面、外出やオフィスへの出入りは可能であり、実店舗やネットでの買い物、レストランでの飲食等もある程度は可能であった。

一方、今回のロックダウンの最大の特徴は、「家から出られない、いつ出られるかわからないこと」である。在宅での慣れないテレワークをこなしつつ、日々の食料品をどうやって確保するかということに常に考えを巡らせなければならない。生活・仕事の両面で様々な問題が起こる中、誰かと会って相談することもできない。健康を維持するために必要な運動を十分に行うことも難しい。多くの市民がこういった環境に強い不安やストレスを感じているはずである。

上海に現地法人を有する日系企業の本社においては、ロックダウン期間中の生活・業務両面のサポートのみならず、駐在員や現地社員のメンタルヘルス対策についても十分に留意する必要がある。現地と密にコミュニケーションをとって個々の問題解決をサポートするのみならず、駐在員（特に単身赴任者）に一時帰国を認めてリフレッシュの機会を提供したり、現地向けにメンタルケアに関する情報提供やオンライン講習の斡旋を行う等の対応も一考されたい。弊社でも現地で提供できるメンタルヘルス関連のサービスを強化していく。

以 上

共同執筆：インターリスク上海 総経理 飯田 剛史
経理 阿部 龍之介

MS & ADインターリスク総研株式会社は、MS & ADインシュアランス グループのリスク関連サービス事業会社として、リスクマネジメントに関するコンサルティングおよび広範な分野での調査研究を行っています。

中国進出企業さま向けのコンサルティング・セミナー等についてのお問い合わせ・お申込み等は、下記の弊社お問合せ先、またはあいおいニッセイ同和損保、三井住友海上の各社営業担当までお気軽にお寄せ下さい。

お問い合わせ先 MS & ADインターリスク総研 総管理部門 国際業務グループ

TEL. 03-5296-8920 <https://www.irric.co.jp/>

インターリスク上海は、中国 上海に設立されたMS & ADインシュアランスグループに属するリスクマネジメント会社であり、お客様の工場・倉庫等へのリスク調査や、BCP策定等の各種リスクコンサルティングサービスをご提供しております。

お問い合わせ・お申し込み等は、下記の弊社お問合せ先までお気軽にお寄せ下さい。

お問い合わせ先 瑛得管理諮詢（上海）有限公司（日本語表記：インターリスク上海）

上海市浦東新区世紀大道100号 上海環球金融中心34階 T10室-2

TEL: +86-(0)21-6841-0611（代表）

本誌は、マスコミ報道など公開されている情報に基づいて作成しております。

また、本誌は、読者の方々に対して企業のRM活動等に役立てていただくことを目的としたものであり、事案そのものに対する批評その他を意図しているものではありません。

不許複製／Copyright MS & ADインターリスク総研 2022